



国民健康保険税と マイナ保険証について

篠木 正明 議員



質問 「国保税が高すぎる」という市民の声に、どう応えるのですか。

答弁 国保税が高いという市民の声があることは認識していますが、相互扶助の精神に基づいて、国保財政の安定運営を考え、加入者に一定の負担をお願いせざるを得ないと考えています。

質問 相互扶助と言いますが、国民健康保険法では社会保障とされていて、相互扶助ではありません。公的に保障しなければならぬのです。国保は年齢構成が高いため医療水準が高く、所得水準は低いという構造的問題を抱えています。手厚い公的負担がなければ成

り立たない制度になっているのです。これまで、どのような国保税を上げない方策を講じてきたのですか。

答弁 税率を決める基となる医療費総額を抑制するために、特定健診や人間ドック費用の助成のほか、ジェネリック医薬品の利用促進を行っています。

質問 サラリーマン等が加入する健康保険は、扶養がいても保険料は増えません。ところが、国民健康保険は

均等割がかかり、子ども一人当たり3万8000円増えています。子どもの均等割を無料にすることはできないのですか。

答弁 子どもへの助成については、今後、国民健康保険運営協議会の検討課題としていきたいと思えます。

質問 トラブル続きのマイナ保険証について、市長の考えをお尋ねします。

答弁 令和6年秋の健康保険証廃止に向けて動いていますが、市民が安心してマ

イナ保険証を利用できる状況になく、延期すべきとアンケートに回答しました。

質問 問題解決には保険証を廃止しないことが一番だと思えます。保険証廃止の延期ではなくて撤回を求めるときではないですか。

答弁 課題もありますが、メリットもあります。国が十分な制度設計や国民への説明を果たした後に判断すべきであり、現時点での白紙撤回を国に要望することは考えていません。



尊い命が失われた件について

吉野 高史 議員



質問 ご家族に対し、ここに署名しないと前へ進まないと誘導し署名させたこと。自殺死を事故死にと事実をねじ曲げようと迫ったこと。口止め工作をした事実。ご家族は、不誠実な対応をしている学校・教育委員会、そして第三者委員会に不信感を抱いている。憔悴し耐

えているご家族に弔慰と敬意を表します。調査希望は16項目を依頼した。なぜ7項目に減らしたのか。ガイドラインに沿ってアンケート調査は行われたのか。

してアンケートそのものを教育委員会が勝手に作り、都合の悪くなることを想定し、言葉巧みに誘導して同意書に署名させたのか。

答弁 調査委員会へご家族の意向等を伝え報告しています。そして、次に進めましょうということ、ご家族の意向に沿ってやっているつもりです。

質問 昨年12月の自殺公表時に第三者委員会の結果発表は夏頃とあったが、状況はどう変わって、いつ頃の

発表になるのか。

答弁 当初、調査委員会でも、報告書は夏くらいを目安にとりましたが、作成にはもう少し時間がかかってしまうかと思えます。

質問 アンケートについて3月と6月の議会で教育長は「ほとんどが回答」と答えたが「ほとんど」とは。

答弁 9割ほどが「ほとんど」という言葉を使います。

質問 142人のアンケート中、問1〜7の回答数は42人、39、39、41、33、36、

38人。あなたは言葉が分かっていない。いい加減な答弁をして議会をすり抜けようなんて駄目だ。教育委員会は事実を言わないということを付け加えておく。同じ轍を踏まないためには。

答弁 児童生徒の命を守ることを全校の教育活動において最重要事項と位置づけ一層の充実に努めます。

要望 ご家族は「生徒の3〜4人から聞き取り調査を」と要望している。対応を要望します。